

富士遊牧人

発行日：2023年8月20日
発行元：株式会社 Graceland 関内慎介
〒418-0102 静岡県富士宮市人穴 793
富士山西麓朝霧高原 No. 6



-----優生保護法について-----

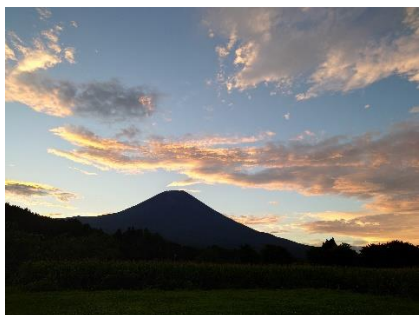
【1948年（昭和23年）から1996年（平成8年）まで存在した日本の法律である。優生思想・優生政策上の見地から不良な子孫の出生を防止する事と、母体保護という2つの目的を有し、強制不妊手術（優生手術）、人工妊娠中絶、受胎調節、優生結婚相談などを定めたものであった。】

最近ニュースでやっていたものでそれで初めて知ったという方も多いのではないのでしょうか？非常に悲しい法律です。

私は、結婚に関してただならぬ思いがありました。早く結婚したい、婚期は早い方がいいと。ド田舎の酪農家というのはなかなか結婚できないと思っていましたし、現に近所の酪農家は結婚できず（せず）跡取りがないという事で離農される方がいます。酪農家において結婚できない事は将来がないと思っていたのでとにかく結婚願望はあるほうでした。

私と妻が知り合ったのは私が26歳の時、妻は19歳でした。3年後結婚しそして妻は非農家でしたが、現在うちの仕事に従事してくださっています。家事育児がある中、やった事の無い酪農をしてくださり本当にありがたいことです。

息子は結節性硬化症という難病で、てんかん発作が小さいころからありましたが、この2年ほど薬の効果か、発作が無く過ごさせていただいております。現在は発達障害がありますし、こだわりや神経質な所もあります。私は毎日のように家族の事や息子の事を考えております。息子に病気が無かったとしたら今の暮らしはどう変わっていたのか？今と違う生活だったらどうだったのか？ただの無いものねだりでしかありません。今の様な現実があるからこそこのような文章を書く事ができる事は確かにありますが。普通ってなんなのでしょう？平凡ってなんなのでしょう？多分、皆さんそれぞれの立場において必死に取り組まれている事と思います。恩師の先生には「変える事はできない。あるがままに受け入れよ」と幾度となく教えていただ



ておりますが、神経質なもので考える事はよくあります。数か月前、一緒に勉強する先輩は夕食の席で、生まれ変わってもまた奥様と結婚したいとおっしゃっていました。それを聞いた途

端、頭をガーン！と叩かれた思いでした。じゃあ自分は？と考えたものです。妻にもしこれを説いたとしたのなら普通に「別な人と結婚したい」（笑）と言われるのかもしれませんが・・・（笑）息子の事を思うと、仮にもしやり直せるのであるならばどうなのか？とも思うのです。優生保護法について私の心の内を話すとする、私としてどちらが良くてどちらが良くないといった判断はできないと思いました。もちろん正当化するつもり

は全く無く、あつてはならないものとも思います。ですがとても複雑な思いです。息子の病気は遺伝するものです。妻もそして義父も結節性硬化症です。私は、子供が大好きです。時には怒る事もありますが（笑）私は父親や祖父のように家族に恵まれて孫やひ孫がたくさん、ワイワイ騒いでいる景色やいつか「おじいちゃん」と呼んでもらえる日を楽しみに憧れていました。息子は誰と結婚しても子供を作るのも自由です。それは分かっていますが、息子に結婚しなさいとか子供を作りなさいと言った声かけを息子の病気を知ってからそのような言葉を今も将来もする事は無いと思うのです。先が見えているのです。惨いなあとも思っていました。8月通信のこの文章を書き始めてもう3カ月になります。書いては辞めまた書きはじめ、どう頭の中を整理して表現すればいいのか？私の思いが読んでくださった方に通じるのか？それでも最近は息子の病気が無くなれば100点満点。でもそこを目指すのではなく80点70点、40点でもいいんじゃないかと思っています。発作が無いだけありがたい。倒れないだけでありがたい。ヘッドギアをはずして外を家族で歩けるだけでもありがたい。夏休みの宿題を黙々と頑張っている姿に、ずいぶんと大人になってきたなあと思います。ちょっとした幸せ。成長している息子は100点満点以上のものです。私の今があるのは家族と一緒に居てくれるおかげです。

-----役員について-----

私は大学卒業後就農し仕事をしながら、消防団や地区の役員、酪農関係の役員をたくさんやってきました。それらをやっていると自分が偉くなったような感覚をもち、自分の生きる活路がそこにあるとさえ思っていました。俺が代表なのだ・・・。どれだけ傲慢なのだ！今思うと家族との生活を結構な時間犠牲にしてきたなと思います。それは経営においてもそうです。やらなくてもいい事に時間を使い人生のチャンスをみすみす逃して来たと思います。もうこれ以上そのような事に時間を割くわけにはいきませんし、家族の生活のために経営に全集中するために一切の役は辞めます。無責任でしょうか？これまで地域に、他の人のために貢献してきました。そして、違った方法で私は社会・地域に対し貢献したいと考えています。何よりも息子の



病気があったからこそ考える事が出来たものです。普通に生活するのであったら絶対に巡り合う事が無かったものと思います。ご縁を大切にします。応援していただけるようひたむきに取り組んでいきます。家族の幸せ、関わってくださる方の幸せを考えて悔いる事の無い人生を構築していきます。